

まどのほうをみますと、まどのそとは、もういちめに、かえるが、やまのようにおしよせて、あっちへ、おしあい、こっちへ、へしあい、たいへんなさわぎです。おまけに、そのしゃべること。「ぐれーれ、ぐれーれ、れるれる」「つらら、つらら」ひめは、いっしょうけんめい、おおきなこえをだして、「ちょっと、まってちょうだい。そんなに、おすと、べつどが、こわれてしまうよ。そんなにしゃべると、あたしのみみが、こわれてしまうよ」と、さげびましたが、かえるたちは、なおもいっしょうけんめいに、のぞきこんでしゃべります。ひめは、もうしにものぐるいになって、かえるたちのあたまをふみつけて、おもてにとびだしましたが、もんのところまでくると、またおどろきました。おしゃべりひめは、かえるのおしゃべりに、おどろいて、かえるのびょういんから、とびだして、おもてへにげだしましたが、おもてもんをでてみるとそとは、りっぱなかえるのまちです。そうして、そのまちが、どこまでも、どこまでも、かえるばかりで、でんしゃも、じどうしゃも、かえるでうまったまま、うごかなくなって、ならんでいます。そこへ、おしゃべりひめが、とびだしたので、いままでよりも、いっそうおおさわぎとなって、「がーがーわーわー」と、まるで、あらしのように、さわぎだします。ひめは、むちゅうになって、かえるのあたまを、ふみつけながら、まちのそとへにげだしました。のはらでも、はや